

せたな町総合計画策定審議会「産業経済専門部会」【検討個表】

【平成 19 年 6 月 27 日(水)】

■農林業【１～５】

- ・ 農業基盤整備／１
- ・ 農業経営／２
- ・ 農業環境整備／３
- ・ 林業／４

■水産業【５～８】

- ・ 港湾／５
- ・ 漁港、漁業生産基盤／６
- ・ 漁業基盤、経営／７
- ・ 海岸保全／８

■商工観光【９～１３】

- ・ エネルギー資源／９
- ・ 企業誘致、勤労者対策／１０
- ・ 商業／１１～１２
- ・ 観光、特産品／１３～１４
- ・ 自然保護／１５

■行財政まちづくり【１６～２２】

- ・ 行政／１６～１７
- ・ 財政／１８
- ・ 広域行政／１９
- ・ 広報広聴、情報公開／２０
- ・ 地域づくり／２１～２２

■せたな町総合計画策定に係る検討個表

【産業経済専門部会】〈農林業分科会〉

部門別項目【農業基盤整備】

住民意見	現状と課題等（施策シート）		将来展望（取り組むべき事業等）	新規	継続	前期	後期
【課題】 ●一次産業の振興 北檜山区 ・一次産業（農林業）中心のまちづくりを／経営安定の基盤づくりと優遇措置／補助金の確保／安定した雇用の場の確保／財政が苦しい時こそ、一次産業を活性化／1次産業に対する町の理解を 大成区 ・一次産業の振興／地場産業の活性化／遊休農地の有効活用	●安定安全な生産体制のための基盤づくり ①生産性の高い土地改良の推進 （継続中） ※実施主体/北海道 ・経営体育成基盤整備事業（大矢谷地区、区画整理）H19完了予定 ・中山間地域総合整備事業（檜山北地区、区画整理他）H19完了予定 ・地域水田農業支援緊急整備事業（若松地区、区画整理他）H22完了予定 ・農地海岸保全整備事業（南川地区、離岸堤）H21完了予定 ※実施主体/農業開発公社 ・草地整備：畜産担い手育成総合整備事業（H17～H21） ・町営牧場：畜産担い手育成総合整備事業（看視舎等H21） ②畑地かんがい施設の維持管理と有効活用 ③土づくりによる生産性向上 ・土壌診断事業 ④適切な農用地利用の促進 ・農地法による農地の流動化 ・農業経営基盤強化促進法による農地の流動化 ・農地保有合理化事業の活用 ⑤農道の整備 （継続中） （実施主体/北海道） ・農免農道整備事業（日向坂地区）H19完了予定 （未実施） （実施主体/北海道） ・農免農道整備事業（若松地区）土地問題により未実施 ・ふるさと農道緊急整備事業（丸山地区） ・農免農道整備事業（鈴の原地区） （実施主体/せたな町） ・基盤整備促進事業（冷水地区）財源問題により未実施 ・基盤整備促進事業（不逢地区、真駒内地区）	➡	●生産体制のための基盤づくりを進めるため、優良農地の確保 ・保全と有効利用、ほ場整備や農道の整備促進など農業生産基盤の一層の充実を図り、担い手農業経営者の育成と農業生産経営体制の強化に努める ①生産性の高い土地改良の推進 ・地域水田農業支援緊急整備事業（若松地区）H22完了予定 ・農地海岸保全整備事業（南川地区）H21完了予定 ・草地整備：畜産担い手育成総合整備事業（H17～H21） ・町営牧場：畜産担い手育成総合整備事業（看視舎等H21） ・（新規）基盤整備促進事業（目名地区） ・（新規）ため池等整備事業（真駒内地区） ②畑地かんがい施設の維持管理と有効活用 ③土づくりによる生産性向上のための土壌診断事業 ④適切な農用地利用の促進 ・農地法による農地の流動化 ・農業経営基盤強化促進法による農地の流動化 ・農地保有合理化事業の活用 ⑤農道の整備 ・農免農道整備事業（若松地区） ・ふるさと農道緊急整備事業（丸山地区） ・農免農道整備事業（鈴の原地区） ・基盤整備促進事業（冷水地区） ・基盤整備促進事業（不逢地区、真駒内地区）	○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	

■せたな町総合計画策定に係る検討個表 【産業経済専門部会】〈農林業分科会〉

部門別項目【農業経営】

住民意見	現状と課題等（施策シート）	将来展望（取り組むべき事業等）
【課題】 ●農業の実態 北檜山区 ・国の施策による市場価格の下落など後継者不足に拍車をかけている／遊休農地の増加、人手不足、生活水準の低下／後継者不足、高齢化による農業者の減少／農業後継者の花嫁対策／農業労働力の高齢化に伴う生産性の低下 大成区 ・年々農林漁業を含めた産業が衰退し、人口減少に／高齢化による後継者不足 瀬棚区 ・後継者の花嫁対策／花嫁対策の予算確保や専任担当者の配置を／若者達との懇談会の実施／指導者の設置 ●中長期的な計画づくり 北檜山区 ・広域的な視野で充分な協議を重ね、現実的な計画が必要 ●農業の振興 北檜山区 ・ビジョンを生かせる農政の確立／国の施策の対象とならない個人経営者の一元化と支援／大胆な補助事業の導入／農産物価格の下落による農業収入の減少に対応した町の振興策を／厳しい経済状況で先を見通せず息子を後継者にできない 大成区 ・一般町民、高齢者等によるシルバー農業の創出と、新規就農者の導入／観光農業をめざしモデル施設の整備／区ごとに目玉となる産業に力を入れ、地域に特徴ある産業を育てる 瀬棚区 ・アスパラは手間がかかる／農産物価格の低迷（特に米）等による所得減少／牛乳生産調整／新規作目の導入による所得向上／補助事業の導入 ●農業振興への行政支援 北檜山区 ・新作物など将来を見据えた継続のための町の支援／補助事業のバックアップ体制／町の基本構想の明確化／一次産業への財政支援／農業経営の所得確保／所得補償政策／人材バンク的なものの設立／協同経営（法人）の支援策 ●農業者の自立 北檜山区 ・個々の自立意識改革が必要／町に頼り過ぎない／直販の時代／自らのアイデア必要 ●特産品の開発・販売促進 北檜山区 ・農産物の特産品開発と販売ルート確保／付加価値を高める／積極的なPR／町とJAのリーダーシップ必要 瀬棚区 ・仕事のない人に野菜を作ってもらうことはできないか／特産品を使った食堂・地元の野菜を購入する場がない／地元で消費できる体制を ●農協女性部の活動 瀬棚区 ・イベント活動は厳しい（仕事との両立）／野菜の直売所の継続は大変 ●農協の相互交流 瀬棚区 ・2つの農協間での交流が必要 ●酪農の振興 瀬棚区 ・牛を増やしたい	●魅力ある農業経営の確立 ・農業は、高度経済成長の過程で食料需要の増大に対応し、その安定供給に大きな役割を果たすとともに、地域経済の発展と地域生活の安定に大きく寄与したが、反面、他産業の急速な発展や農畜産物の輸入自由化をはじめ、農産物価格の低迷による若年労働力の流出により高齢化が進行し、農業経営は厳しい状況にある。 1 推進体制 ①地域の特性を活かした農業推進体制の整備 ・せたな町農業振興会議 2 消費者ニーズに応じた農畜産物の生産 ①稲作 ・玄米ばら集出荷施設（北桧山地区・JAきたひやま）H16 整備 ・米乾燥調整貯蔵施設（若松地区・JA新函館）H15 整備 ・新品種の導入（おぼろづき／JAきたひやま、ふっくりんこ／JA新函館） ②畑作 ・広域品目の追加（新規作物の導入／ブロッコリー） ③新規導入作物 ・花き ④酪農 乳質の向上 ⑤肉牛 優良牛の確保 ⑥養豚 生産量の安定確保 ⑦養羊 生産量の安定確保 3 防疫等体制の強化 ①農産物防疫等対策の強化 ・生産履歴 ・病害虫等防除の推進（米麦改良協会と連携） ②家畜衛生対策の強化 ・家畜伝染病予防対策（家畜自衛防疫組合等との連携） ・町営牧場の衛生対策（家畜自衛防疫組合等との連携） 4 法人経営の育成 ・法人設立に対する支援 5 経営支援システムの育成 ・コントラクターなどの育成（現在2法人） ※コントラクター事業とは、牧草収穫など農作業の一部を民間業者に委託し、農業者側の労働力不足の解消やコスト削減による規模拡大などを目的としたもの。 6 担い手対策 ①後継者の育成・支援 ・産業担い手育成条例による助成 ・農業委員会との連携 ②新規就農者の支援 ・産業担い手育成条例による助成 ・地域農業担い手育成センター ③女性の参画と機能発揮 ・農村女性グループ活動の支援 7 地域資源を活かしたアグリビジネス等の振興 ①アグリビジネスの普及・啓発 ・農産物加工等の開発支援 ※アグリビジネスとは、農業機械産業から食品加工業まで農業に関わる幅広いビジネスを意味し、バイオテクノロジーの利用など従来の農業から企業主導の新しいビジネスへと移行しつつある農業関連産業のこと。 ②地域ブランド化の推進 ・農畜産物の地域商標登録の検討	●魅力ある農業経営の確立のため、農業協同組合をはじめとする農業関係機関や団体と一体となり、適正な米の生産調整、地域の特性や高齢社会に即した新たな作付け体系の導入、産地化を目指す 1 地域の特性を活かした農業の推進 （せたな町農業振興会議の開催） 2 消費者ニーズに応じた農畜産物の生産 ・低温倉庫等施設（新規）（北桧山地区・JAきたひやま） ・設備増強（貯蔵ビン、色彩選別機等）（新規） （若松地区・JA新函館） ・新品種（おぼろづき、ふっくりんこ）の生産拡大 ・ブロッコリー作付面積の拡大 ・花き作付面積の拡大など新規作物の導入 ・乳牛の乳質の向上 ・優良牛の確保 ・養豚の生産量の安定確保 ・養羊の生産量の安定確保 3 農産物防疫等対策の強化 ・生産履歴 ・病害虫等防除の推進（米麦改良協会と連携） 家畜衛生対策の強化 ・家畜伝染病予防対策（家畜自衛防疫組合等との連携） ・町営牧場の衛生対策（家畜自衛防疫組合等との連携） 4 法人設立に対する支援 5 コントラクター法人の育成と有効活用 6 担い手対策 ・後継者の育成、支援（産業担い手育成条例による助成） ・新規就農者の支援 ・農村女性グループ活動の育成支援 ・女性の認定農業者の育成 7 地域資源を生かしたアグリビジネス等の振興 ・アグリビジネスの普及・啓発 ・農産物加工等の開発支援 ・地域ブランド化の検討

■せたな町総合計画策定に係る検討個表 【産業経済専門部会】〈農林業分科会〉

部門別項目【農業環境整備】

住民意見	現状と課題等（施策シート）	将来展望（取り組むべき事業等）
【課題】	●環境や景観と調和した農業・農村づくり ・農畜産物の輸入自由化をはじめ、農産物価格の低迷、環境問題や食糧・食品の安全性に対する関心の高まりなど、農業を取り巻く環境は一層厳しさを増している。 1 農業・農村多面的機能の発揮 ①農地、農村景観等の保全活動 ・中山間地域等直接支払交付金事業集落協定活動の推進（H13～21） 2 農業系廃棄物の適正処理並びに有効活用の推進 ①農業用廃プラスチックの適正処理 ・リサイクル処理対策 ②家畜排泄物処理施設の整備 ・畜産環境整備リース事業（北檜山地区）実施主体/酪農畜産協会 H 21 完了 ・シート掛対応助成（H16 完了） ③家畜排泄物の適正管理 ・家畜排泄物適正化巡回チーム（継続） ④家畜排泄物の有効活用 ・耕畜連携による有効活用の推進 3 安心・安全な農畜産物の生産 ①減農薬・減化学肥料による先進的営農活動 ・有機農業の奨励（瀬棚区助成事業 H13～17） ・Yes クリーン農産物の奨励 ※有機農業の推進に関する法律（有機農業推進法）平成 18 年 12 月施行 ※有機農業の推進に関する基本的な方針の公表 平成 19 年 4 月	●環境に配慮した農業の展開や都市と農村との共生による魅力ある農村づくりを目指すとともに、有機農業へ積極的に取り組むための環境を整備し、安心安全な農畜産物の生産に努める 農地、農村景観等の保全活動 ・中山間地域等直接支払交付金事業 農業用廃プラスチックの適正処理 ・リサイクル処理の推進 家畜排泄物処理施設の整備 ・畜産環境整備リース事業（H 21 完了） 家畜排泄物の適正管理 ・家畜排泄物適正化巡回チームによる適正管理 家畜排泄物の有効活用 ・耕畜連携による有効活用の推進 安心・安全な農畜産物の生産 ・有機農業の推進に関する法律による「有機農業の推進に関する基本的な方針」に基づき、有機農業による経営安定のための環境を整え、有機農業の推進を図る。 交流型農業の推進（グリーンツーリズム等）

部門別項目【林業】

住 民 意 見	現状と課題等（施策シート）	将来展望（取り組むべき事業等）																																												
【課題】 ●林業の実態 北檜山区 ・予算減少により組合経営に苦慮／森林に対する認識不足／木の商品化は難しい／長期施業で不在が多く売買等も大変／雇用が不安定で収入が乏しい ●林業の振興 北檜山区 ・大成区のスギは需要があるがブランド化していない／販売ルートの確立必要／長期的な見方が必要／森林に対する理解を深める／町の支援で境界を明確にし売買の推進を ●加工場の連携・充実 北檜山区 ・木工場は広域連携が必要／町の一次産業資源の加工場の建設 ●人材確保 北檜山区 ・人材バンク等の確立／若者の交流の場	●森林の保全と林業の振興<産業振興課> ・森林は、国土保全や水源涵養等多くの機能を持つが、木材価格の低迷に加え、従事者の高齢化や担い手の不足などにより、民有林の管理が危惧され森林の荒廃が懸念されている状況にある。 ・このことから、豊かな森林の育成をめざした造林事業の推進など生産基盤の整備や森林組合の育成強化と連携を進めるが必要である。 1 森林施業の充実 ・森林整備地域活動支援交付金事業（H14～H18）〔国・道補助〕 ・21世紀北の森づくり推進事業（H13～H22）〔道補助〕 ・一般民有林造林事業（除間伐）〔町単〕 ・一般民有林造林事業（作業路）〔町単〕 ・一般民有林造林事業（下刈）〔町単〕 ・町有林造林事業〔国・道補助〕 ・町有林下刈事業〔国・道補助〕 ・町有林除間伐事業〔国・道補助〕 ・町有林枝打事業〔国・道補助〕 2 林業の振興 ・森林所有者の意識の醸成により適正な管理と生産性の向上 ・森林組合の育成強化と連携 ・森林施業の共同化や受委託の促進による広域的な林業生産体制の充実と計画的な森林施業の推進 ・森林教育の充実（自然体験などふれあう機会づくりと意識改革）	●森林の持つ機能の重要性を広く認識しながら、高齢化等の課題を踏まえ、引き続き豊かな森林の育成をめざした造林事業等を進め、森林組合を中心とした計画的な森林施業の推進と森林空間の総合的な活用に努める 1 森林施業の充実 ・森林整備地域活動支援交付金事業（H19～H23）〔国・道補助〕 ・21世紀北の森づくり推進事業（H13～H22）〔道補助〕 ・一般民有林造林事業（除間伐）〔町単〕 ・一般民有林造林事業（作業路）〔町単〕 ・一般民有林造林事業（下刈）〔町単〕 ・町有林造林事業〔国・道補助〕 ・町有林下刈事業〔国・道補助〕 ・町有林除間伐事業〔国・道補助〕 ・町有林枝打事業〔国・道補助〕 2 林業の振興 ・森林所有者の意識の醸成による適正な管理と生産性の向上 ・森林組合の育成強化と連携 ・森林施業の共同化や受委託の促進による広域的な林業生産体制の充実と計画的な森林施業の推進 ・森林教育の充実（自然体験などふれあう機会づくりと意識改革） ・ブランド化の推進 <table><tr><th>新規</th><th>継続</th><th>前期</th><th>後期</th></tr><tr><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr><tr><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr><tr><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr><tr><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr><tr><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr><tr><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr><tr><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr><tr><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr><tr><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>○</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	新規	継続	前期	後期		○	○			○	○			○	○			○	○			○	○			○	○			○	○			○	○			○	○		○			
新規	継続	前期	後期																																											
	○	○																																												
	○	○																																												
	○	○																																												
	○	○																																												
	○	○																																												
	○	○																																												
	○	○																																												
	○	○																																												
	○	○																																												
○																																														

■せたな町総合計画策定に係る検討個表 【産業経済専門部会】〈水産業分科会〉

部門別項目【港湾】

住民意見	現状と課題等（施策シート）	将来展望（取り組むべき事業等）				
【課題】 ●港湾整備 瀬棚区 ・港内に消波ブロック増設必要／外防波堤の延長／静穏域の浚渫必要	1 地方港湾瀬棚港<産業振興課> ・港湾は、物流や人の交流の場として地域振興に大きな役割を果たしており、今後も港湾整備計画による整備を進め、静穏海域内での大規模増養殖事業の活用を推進する必要がある。 ①物流 ・公共事業等の削減による貨物量の減少 (H18:568千t、H17:808千t、H16:470千t、H15:545千t H14:650千t) ・冬季の船舶航行への支障 (入出港航路の静穏確保) ・-7.5m岸壁の有効活用 (骨材船運搬船以外の大型船舶の活用) ・港内規定水深の確保 ②水産業 ・静穏海域の早期活用 H19.4現在 ① アワビ養殖施設 10基 ② ホタテ蓄養施設 1連(150m) ③ ホヤ養殖施設 2連(120m) ・水深の確保 (H18年2月現在では、計画水域の最浅部で2.0m未満となっており、懸島南側より急激に浅くなっている。) (継続中) ・地方港湾瀬棚港整備事業(マリンタウンプロジェクト事業) 国直轄事業 ※静穏度の確保 ※H20年度に今後の事業展開を見極めるための見直しを予定	●地域産業と連携した物流拠点としての活用、静穏海域内での大規模増養殖事業への活用による水産業の振興、フェリーの運航など交流拠点として、計画的に港湾整備を進め、港湾機能の充実を図る ・地方港湾瀬棚港整備事業 1)島防波堤の延長 2)-7.5岸壁の2バース目の整備 3)-7.5m泊地の浚渫 4)静穏域水深の確保 5)小型船岸壁・船溜 6)その他 ・積極的ポートセールスによる-7.5m岸壁のPR ・適正な港湾施設維持管理の実施 ・静穏海域での増養殖事業への活用 ・フェリーの運行	新規	継続	前期	後期
			○	○		
			○	○		
			○	○		

■せたな町総合計画策定に係る検討個表

【産業経済専門部会】〈水産業分科会〉

部門別項目【漁港・漁業生産基盤】

住民意見	現状と課題等（施策シート）	将来展望（取り組むべき事業等）
【課題】 ●漁港の活用 大成区 ・久遠漁港でのヨットの利用を／久遠漁港は散歩にいいが外灯が半分消えている／宮野漁港の活用 ●生産基盤の整備 瀬棚区 ・老朽化のため組合の冷凍施設の新設（活魚水槽併設） ●参考(せたな町の漁港) 瀬棚区 須築(4種) 美谷(1種) 吹込(1種) 虻羅(1種) 中歌(1種) 北檜山区 鵜泊(1種) 太櫓分港 大成区 太田(1種) 上浦(1種) 都分港 久遠(3種) 宮野(1種) 平浜(1種) 白泉(1種) 長磯(1種) ●1種 利用が地元の漁業を主とするもの 2種 利用が1種より広く、3種に属さないもの 3種 利用が全国的なもの 4種 離島その他の辺地であって、漁場の開発または漁船の避難上特に必要なもの ●管理者 ・1種、2種、3種 北海道 ・4種 国	1 漁港整備 ・荒天時の航路の安全確保されていない漁港や静穏度が保たれていない漁港、既存施設が老朽化している漁港外防波堤等の整備が必要である。また、利用漁船の少ない漁港の有効活用が課題である。 ・町内の漁港数 13（分港2） ①中歌漁港地域水産基盤整備事業（瀬棚区） 事業主体／北海道 ・H18:設計 ・H19:旧西防波堤改良、輸送道路新設 ・H20：旧西防波堤改良、用地舗装 ②久遠漁港特定漁港漁場整備事業（大成区） 事業主体／北海道 島防波堤 150m H23 完成予定 大成地域マリンビジョン計画（H18～28） ③太田漁港地域水産物供給基盤整備事業（大成区） 事業主体／北海道 船揚場改良 100.7m H19 完成予定 ④上浦漁港地域水産物供給基盤整備事業（大成区）H18 完了 事業主体／北海道 ⑤その他漁港整備（部分改修等）の未実施 （未実施） 事業主体である北海道の財政悪化 2 生産基盤（漁場） ・造成魚場の整備により、クロソイ、メバル、ひらめなどの稚魚放流が行なわれているが、既存魚礁の効果調査と再配置や保管魚礁の設置などが課題である。 ①広域漁場整備事業(事業主体／北海道) （大型魚礁） 大成漁場（大成区）H23 完成予定 （ミズダコ産卵礁） 瀬棚沖 （瀬棚区）H20 完成予定 （ヤリイカ産卵礁） 瀬棚須築（瀬棚区）H20 完成予定 大成富磯（大成区）H19 完成 ②地域水産物供給基盤整備事業(事業主体／北海道) （大型魚礁） 北檜山漁場（北檜山区）H21 完成予定 ③岩のり試験礁の調査(事業主体／ひやま漁協) 平成16年から瀬棚区梅花都、北檜山区古櫓多、大成区富磯・平浜にノリの試験礁を設置して着生状況の把握、増殖手法の基礎資料を収集している。 ④藻場造成試験事業（大成区）(事業主体／民間) 磯焼けなどで悪化した前浜を回復できないものかと平成16年度から久遠漁港内で自生している海藻のホンダワラを活用して増殖試験を行なっている。 ⑤磯焼け実証試験事業（瀬棚区・北檜山区） 磯焼けなどで悪化した前浜を回復できないものかと平成16年度から瀬棚港内及び須築漁港内でフルボ酸鉄溶出ユニットを利用した増殖試験を行なっている。 また、平成17年度に鵜泊漁港静穏域においてもフルボ酸鉄溶出ユニットを利用した増殖試験を行なっている。 いずれも民間が事業主体となっている。（（株）エコグリーン・ひやま漁協） 3 大成水産種苗育成センター 平成16年度にあわびの種苗生産施設から中間育成施設になったことから、人件費の削減、生産コストの削減など種苗単価の引下げを行なうなど独自の施設運営に向けた取り組みを行なっている。種苗購入単価、販売単価が統一となっているため施設運営は厳しい状況となっている。（生産能力35～50mm 約60万個）	1 漁港整備 ●計画的な漁港整備により、漁業生産基盤である漁港の安全確保を図る ・中歌漁港地域水産基盤整備事業 1)H20：旧西防波堤改良、用地舗装 ・久遠漁港特定漁港漁場整備事業 島防波堤、大成地域マリンビジョン計画の推進 ・久遠漁港特定魚場整備事業の計画変更(新規) 1)屋根付き岸壁の延伸、物揚場の新設など ・太田漁港地域水産物供給基盤整備事業の計画変更（新規） 1)西防波堤・北護岸の胸壁嵩上げ ・上浦漁港地域水産物供給基盤整備事業の計画変更（新規） 1)外防波堤の新設、南防波堤の延伸など ・道単独漁港整備・漁港維持補修及び海岸関係事業の要望 2 生産基盤（漁場） ●沿岸漁業の生産基盤を拡大し、漁業生産の向上と漁業経営の安定を図る ・広域漁場整備事業（継続） （大型魚礁） 大成漁場（大成区）H23 完成予定 （ミズダコ産卵礁） 瀬棚沖 （瀬棚区）H20 完成予定 （ヤリイカ産卵礁） 瀬棚須築（瀬棚区）H20 完成予定 ・地域水産物供給基盤整備事業（継続） （大型魚礁） 北檜山漁場（北檜山区）H21 完成予定 ・シェルナース礁の設置（新規）貝取淵地区 ・リノフーレ礁、ノリ増殖礁設置の検討（新規） （設置場所・地元負担など課題） ・ホンダワラ海中林藻場造成の検討（新規） ・フルボ酸鉄溶出ユニット設置の検討（新規） （設置場所・地元負担など課題） 3 大成水産種苗育成センター ●水産資源を守り育てるための中心的役割をもつ施設として、その機能を十分発揮できる体制を整え、水産資源の育成を進める ・あわび種苗や他の水産資源（ナマコなど）の健苗育成 ・重力式ろ過器整備事業 ・海水取水管取替え事業 ・熱交換器設置事業

■せたな町総合計画策定に係る検討個表

【産業経済専門部会】〈水産業分科会〉

部門別項目【漁業基盤・経営】

住民意見	現状と課題等（施策シート）	将来展望（取り組むべき事業等）				
【課題】 ●漁業経営の実態 大成区 ・漁のない冬期間は出稼ぎ／原油価格上昇による負担増／密漁被害増大（特に暴力団関係）／アオサメ被害（退治方法は）／サクラマスを放流しても川で産卵しない（ダムに原因か）／河川改修で海の栄養分低下／ウニの価格低下で収入減 瀬棚区 ・ナマコ資源の現状維持／原油価格上昇による負担増／密漁被害増大（プロの密漁対応）による監視体制強化／漁業振興補助の不安 ●漁業の振興 大成区 ・漁業を守る施策の抜本的見直し／漁業活性化のため各河川のダムの清掃等を行い、資源の活用を図るべき／漁業政策を確立し、具体的検討／主漁業であるイカ漁が6月～12月であり、1月～5月の対策を／水産加工などの意見を大事にし本庁、支所に「すぐやる課」を設置／漁業にも力を入れて活気のある町に／海の側にいて海産物が買えない 瀬棚区 ・一次産業の活性化なくして町の発展はない／漁業者として補助を削られるのは痛い ●育てる漁業の推進 大成区 ・今年からウニの横移植実施／クロソイの放流毎年実施／ナマコの商品価値増大（生産拡大と乱獲保護）／サケ二次飼育施設建設による資源増大／前浜での種苗育成／漁業資源の増殖が大事／わずらわしさなどの問題解決／漁種の間育成を活発にし、漁獲数を上げる／大成区に合う、堅実的な養殖を 瀬棚区 ・ナマコ資源の増大（栽培公社との連携も）／静穏域でのホンダワラの育成／バフンウニの種苗放流増大／ウップ類海苔（知名度高い）の事業化 ●サケ二次飼育池の増設 北檜山区 ・良瑠石川回帰状況が顕著なため二次飼育池の増設により資源増大を ●特色ある産業振興 大成区 ・3区ごとに重点的な施策を／植林による森づくりで海を豊かに 瀬棚区 ・海洋を生かした町づくり／安全な食べ物／漁業にも力を入れるべき ●後継者問題 大成区 ・後継者不足／高齢化／育てる漁業で若者にやる気を／子供の数の減少 ●組合の状況 大成区 ・合併して時間がたつが前と変わらない（加工場の量や漁業権の許可など） ●水産加工品のPR 大成区 ・スルメイカの塩辛など地域ブランドとしてPR ●資金不足への対応等 北檜山区 ・基金が不足したときの行政の対応は／漁業保証金の扱いに対する整理必要	1 増養殖・資源管理 漁獲が低迷する中で、補助を受けないで受益者負担のみで事業の自立化ができるかが課題であります。また、安定した販路の確保が求められている。 ①アワビ海中養殖事業（瀬棚区）（実施主体／ひやま漁協） ・部会員数が少なく、増加が見込まれない。（現在16基使用）（未実施）（一部実施） ・計画39基のうち18基整備したが、今後、部会員数の増加が見込めないことから、残21基については整備しない。 ②アワビ人工種苗購入事業（瀬棚区）（実施主体／ひやま漁協） ・高度な養殖技術の確立（継続中） ・H21まで檜山漁業振興基金にて対応 ③ウニ深淺移植事業（3区）（実施主体／ひやま漁協）（継続中） ・H21まで檜山漁業振興基金にて対応 ④エゾバフンウニ種苗放流事業（瀬棚区）（実施主体／ひやま漁協） ・補償事業なので、事業完了時期の検討を要す（継続中） ・H21まで檜山漁業振興基金にて対応 ⑤エゾバフンウニ種苗放流事業（北檜山区）（実施主体／ひやま漁協）（継続中） ・H21まで檜山漁業振興基金にて対応 ⑥クロソイ中間育成事業（瀬棚区）（実施主体／ひやま漁協）（継続中） ・H21まで檜山漁業振興基金にて対応 ⑦ナマコ栽培試験事業（大成区）（実施主体／ひやま漁協） 近年ナマコ需要が国内的に高まり、天然ナマコ資源の減少が懸念されることから将来の持続的漁獲資源の安定供給を図るため、平成17年度よりナマコの人工種苗生産技術の確立に向けた試験を大成水産種苗育成センターで行っています。 2 種苗放流 ヒラメ、メバル、クロソイなどの種苗放流を漁協単位、広域で行なっているが、漁獲量に結び付いていない現状である。魚種資源の強化のためにも仔稚魚育成の場である藻場の造成・管理が重要である。 ①サクラマス資源増大広域事業（広域）（実施主体／ひやま漁協）（継続中） ・H21まで檜山漁業振興基金にて対応 ②ひらめ放流事業（広域）（実施主体／ひやま漁協）（継続中） ・日本海栽培漁業展開促進事業 ③サケマス稚魚二次飼育池（実施主体／ひやま漁協） 北桧山区良留石（100万尾）・瀬棚区馬場川（200万尾）・瀬棚区嗣内川（100万尾） ・大成区小川（300万尾） ④クロソイ・マゾイ稚魚放流（大成区）（実施主体／ひやま漁協）（継続中） ・ひやま漁協大成支所小型研友会が実施 3 経営近代化 ①農漁業近代化資金利子補給事業（継続中） 4 漁業団体 ①漁業協同組合経営再建特別合併対策事業（H6～H21年度の15年間） ②漁業協同組合経営維持支援事業（H12～H21年度の10年間） 5 担い手対策 漁業就業者の減少と高齢化による漁業生産力の低下	●漁獲規制、資源の減少、漁業就労者の高齢化と後継者不足等、漁業を取り巻く環境はますます厳しさを増す中で、漁協や生産者と連携し、限りある水産資源を守り育てるための資源管理を行いながら、増養殖漁業を積極的に進め「つくり・育て・売る」漁業の推進に取組む 1 増養殖・資源管理 ・アワビ人工種苗購入事業（継続） ・ウニ深淺移植事業（継続） ・エゾバフンウニ種苗放流事業（継続）（事業完了する時期の検討） ・クロソイ中間育成事業（継続） ・ナマコの種苗生産事業（新規） ・ナマコ稚魚の放流（新規） 2 種苗放流 ・サクラマス資源増大広域事業（継続） ・ひらめ稚魚の放流（継続） ・サケマス稚魚二次飼育池施設の増設 ・クロソイ・マゾイ稚魚の放流（継続） 3 経営近代化 ・農漁業近代化資金利子補給事業（継続） 4 漁業団体 ・漁業協同組合経営再建特別合併対策事業（H21年度まで継続） ・漁業協同組合経営維持支援事業（H21年度まで継続） 5 担い手対策 ・後継者の育成、支援（産業担い手育成事業奨励金）	新規	継続	前期	後期

■せたな町総合計画策定に係る検討個表 【産業経済専門部会】〈水産業分科会〉

部門別項目【海岸保全】

住 民 意 見	現 状 と 課 題 等 （ 施 策 シ ー ト ）		将 来 展 望 （ 取 り 組 む べ き 事 業 等 ）				
【課題】	1 漁港海岸保全 台風等の波浪による越波を防止するため消波堤及び離岸堤の整備をすることにより高潮対策を講ずる。 ①上浦漁港海岸高潮対策事業（大成区） 消波堤 100.0m H20 完成予定 ②久遠漁港海岸高潮対策事業（大成区） 消波堤 523.2m 離岸堤 140m H24 完成予定	➡	●海岸浸食や越波から地域住民の生活を守る	新規	継続	前期	後期
			・上浦漁港海岸高潮対策事業（大成区）H20 完成予定		○	○	
			・久遠漁港海岸高潮対策事業（大成区）H24 完成予定		○	○	

■せたな町総合計画策定に係る検討個表 【産業経済専門部会】〈商工観光分科会〉

部門別項目【エネルギー資源】

住民意見	現状と課題等（施策シート）	将来展望（取り組むべき事業等）				
【課題】	1 温泉<建設水道課> ①温泉の整備 【北檜山区（1号井）】 ・昭和57年掘削 ・昭和58年利用開始 ・現在7施設で暖房用、浴用として利用している。 ・水位が年々低下している。平成元年度と比較して現在20m程度低下している。 ・今後井戸の枯渇も考えられるが、時期等の予測は困難で、今後も状況の把握に努める必要がある。 【未実施】・温泉4号井開発事業（北檜山区） ・温泉1・2号井熱源供給施設整備事業（北檜山区） ・1・2号井温泉供給施設は利用開始後20年以上経過し、計装盤等も老朽化が進んでいる。自然災害への対応及び状況把握のためデータの収集、管理が必要 【瀬棚区（4号井：南川地区）】 ・平成4年11月 動力装置（ポンプ）設置 ・平成8年3月 栽培漁業瀬棚センターへ供給開始 ・平成9年11月 やすらぎ館へ供給開始 ※温泉採取状況：湧出量600ℓ/分、温度39.0度、口径80mm、深さ272m ※施設の老朽化対策や温泉の安定供給に向けた状況調査等が必要。 【大成区（3・4・5号井：貝取澗地区）】 ・昭和51年（3号井）、昭和54年（4号井）、昭和60年（5号井）掘削 ・現在3施設（大成水産種苗育成センター、国民宿舍あわび山荘、大成国民温泉保養センター）で加温用、浴用として利用している。 ※施設利用開始後20年以上経過し、計器盤・本管の老朽化が進んでいることが予想されるため、温泉の安定供給に向けた状況調査が必要。	1 温泉 ●地域産業や観光振興に果たす役割が大きい温泉施設の整備充実を図り、その維持管理に努める ・温泉4号井開発事業（北檜山区） ・温泉1・2号井熱源供給施設整備事業（北檜山区） ・温泉本管布設替、計器盤等改修整備事業（大成区） ・状況調査の実施	新規	継続	前期	後期
	2 新エネルギー<産業振興課> ①風力発電 【実施済】・日本初の洋上風力発電事業 600kW×2基 ・民間企業による風力発電事業 600kW×2基、2,000kW×6基 【未実施】・太櫓ウインド・ファーム構想 ※太櫓ウインド・ファーム構想：エコ・パワー株式会社が太櫓の野合地区において、風力発電を行おうとするプロジェクト。北海道電力の入札（平成11年10月）及び抽選（平成15年4月）に応募したが、候補となることができなかった。現在も風況調査（太櫓裏山）を行うなど構想の実現に向けて取り組んでいる。 ※観光事業との連携 ②環境エネルギーの有効利用 ・国及び道の環境政策を見据えたなかで、この恵まれた土地を活用した環境エネルギーの活用について、可能性のある取組みについては研究が必要である。 ③民間団体との連携 ・クリーンエネルギー研究会（北檜山区）	2 新エネルギー ●地域性を生かした風力発電など、環境保全や産業振興に結びつけた新エネルギーの導入に向けた取り組みを積極的に進める ・風力発電事業の推進（洋上風車、民間参入） ・環境エネルギー活用に向けた研究及び情報収集 ・クリーンエネルギー研究会（北檜山区）の活動支援（地域でのエネルギー活用と産業化に向けた取り組み）		○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	

【産業経済専門部会】〈商工観光分科会〉



■せたな町総合計画策定に係る検討個表

【産業経済専門部会】〈商工観光分科会〉

部門別項目【商業】

住民意見	現状と課題等（施策シート）	将来展望（取り組むべき事業等）
【課題】 ●商工業の実態 北檜山区 ・家電、衣料類は町外に消費流出／大型店参入への対策／空き店舗問題 大成区 ・大成区は中心部に密集していない／人口減で需要が減り悪循環になっている／区外への消費流出／他町から客を引き込めない 瀬棚区 ・商工業全体が低迷／地元での消費を望む／商店街の空洞化（空き店舗対策）／消費の低迷、町のイメージダウン、サービスの低下／消費者の町外流出で、商工業者も大変な時／土木建設業の仕事が減り、仕事に就けない人が多い／１次産業が主であるが、それらを支える商工業の景気が悪い／自分たちの事だけを考えるのが精一杯で町がどうしたら良くなるかと考える人は少ない状況／瀬棚区で何でも揃って安心して買える物ができる店がほしい／このままでは商店街はシャッター通りと化す／人通りの少ない街並みに不安が募る ●産業振興 北檜山区 ・基幹産業に希望がほしい／一次産業が活発でないと町も活気がない／地域産業間の連携必要／産業、建設業が発展できるような町に／農林漁業の活性化が商工業の活性化につながる 大成区 ・基幹産業の衰退（漁業の縮小）一次産業が活発でないと町も活気がない／町全体で経済の活性化を／行政と民間の連携／長い目で産業育成 瀬棚区 ・地産地消の推進 ●商業の振興 大成区 ・商店の努力必要（利益率）／住民の地元消費意識／行政も積極的な地元消費対策を／意見交換の場／総合的なスーパーを／地元商店の育成 瀬棚区 ・商店の努力必要（アイディア）／中心市街地の活性化を町ぐるみで／町並みをきれいに／３区の特徴を生かした商店街づくり／商工業（商店）に適切な見解を（見積もり等）／瀬棚区、大成区の商店街の振興にも力を入れて／町営の駐車場整備を／お客様に来店してもらえような店作りを自分たちの手で／中長期の理念を住民に理解していただくよう努力／メインストリートの外壁を統一色に／グリーンベルトの花壇を半分つぶしてベンチを設置／給料を商品券にして地元消費を／外貨を稼ぐことを考えるべき ●後継者問題 北檜山区 ・若者の交流の場を（結婚意識）／先が見えない状態では継がせられない／少子化／後継者が増える町づくり 大成区 ・将来が見えない／ほとんどは今の代で終わりでは／あきらめの状態／加工業者が育たない／少子化 瀬棚区 ・人口減で売上もなく後を継がせられない／日頃過疎化が特に話題になる／当事者の意識薄い／高齢化のため町外からの就業も	1 地域商業の育成<産業振興課> ①地域消費購買力が流出し地元商店街の衰退に著しく拍車をかけている。それぞれの区で地域消費に向けた取り組みを行っているが伸び悩んでいる現状である。 【取組】・アイラブせたな商品券事業（瀬棚区） ・大成メルシー事業（大成区） ・うきうきポイントカード事業（北檜山区） 【催事】・またせたな市（瀬棚区） ・大またせたな市（瀬棚区） ②基幹産業の衰退が商工業の低迷にもつながっている現状から、地産地消の向上と商業の連携による基幹産業の活性化が必要。 【取組】・ふれあい市場（北檜山区）～施設が老朽化 ・夕市（瀬棚区） 【未実施】・ふれあい市場会場建設事業 ③中小企業者の資金繰りの円滑化と経営の安定・改善 【継続中】・中小企業経営安定資金融資利子補給 ④商工業者の意識改革 ・購買力低下を打破するため、消費者ニーズに沿った商工業者の意識改革が必要 ⑤観光事業と連携した商工業の振興策を充実 ・「食」と連携した商工振興策の検討などが必要 2 商店街整備<産業振興課> ①既存商店街の街並み整備 ・北檜山区(旧北檜山町商工会によるＴＭＯ構想による検討) ②空き店舗の有効活用 ③特色を活かした商店街整備 ④買い物がしやすい環境づくり 【未実施】・中心市街地整備事業 ※せたな町中心市街地活性化基本計画書を策定済みであるが、法改正により具体的な事業実施にあたっては新たに計画策定が必要である。 3 商業団体<産業振興課> ①商工会の経営改善指導体制強化のための助成 【継続中】・商工会補助金（Ｈ１９．４．１せたな商工会設立） ②商工会と行政との連携強化 ③青年部及び女性部の活性化 ・各イベントの開催及び参加協力を主体とした活動をしているが、部員数の減少による活動の衰退が著しい。 4 担い手対策<産業振興課> ①魅力ある商工業を創設することで後継者の流出を防ぐ ②空き店舗の有効活用による新規参入の受け入れ ③後継者の意識改革に向けた取り組みを強化	●多様化、高度化する消費者ニーズ等商業環境の変化に的確に対応できるよう、商工会の育成と連携により、経営者の意識改革や後継者の育成、サービスの向上に努め、魅力ある商業を目指す 1 地域商業の育成 ●地域消費の増加に向けた取組み ・３区共通のポイントカード及び商品券の開発 ・３区連携（合同）のイベント開催 ●基幹産業と連携した商工業の活性化 ・夕市やふれあい市場などとの連携 ・ふれあい市場会場の検討 ●中小企業者の経営安定化対策 ・中小企業経営安定資金融資利子補給 ●消費者ニーズに沿った商工業者の意識改革 ・経営者の育成による体制強化 ●観光事業と連携した商工業の振興策 ・「食」と連携した商工振興策 2 商店街整備 ●中心市街地整備事業（北檜山区） ・ＴＭＯ構想の再検討による町並み整備 ●中心市街地以外の整備事業の推進（瀬棚区、大成区） ●買い物のしやすい環境づくり ・駐車場整備の検討（必要性を含め） ・交通機関の確保（シャトルバスなど） ・高齢者対策（段差解消などユニバーサルデザインの推進） 3 商業団体 ●商工会への支援と連携 ・商工会補助金 ・商工会と行政の連携強化 ・青年部及び女性部の活性化支援 4 担い手対策 ●産業担い手の育成及び支援 ・後継者の育成、支援（産業担い手育成事業奨励金） ・後継者育成に向けた取り組み強化

■せたな町総合計画策定に係る検討個表 【産業経済専門部会】〈商工観光分科会〉

部門別項目【商業】つづき

住民意見	現状と課題等（施策シート）		将来展望（取り組むべき事業等）																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
●食を中心とした地域経済の連携と活性化 瀬棚区 ・3地区の食を利用して、地域経済の活性化を／官民一体の取り組み／地域の食を中心に、一次産品、二次産品を積極的に開発すべき／異業種交流を図りながら地域経済の活性化 ●商工会 北檜山区 ・合併後の運営不安（H19.4月3区合併）／財政面での支援必要 大成区 ・合併作業は順調／財政面での支援必要 瀬棚区 ・補助が必要か当面は全く必要ないとした区分を明解にし理解をうながすべき／一律カットは好ましくない ●商工会青年部の活動 北檜山区 ・部員の減少により活動困難／各区のイベントへの参加も困難／3区での交流も進まない 瀬棚区 ・部員少ない／興味を示さない／合併後も各支部ごと活動 ●商工会女性部の活動 大成区 ・店がありイベント等事業への参加が困難／後継者がいない／合併後のイベントの存続が不安 瀬棚区 ・全体の90%が加入している ●空き店舗の活用 北檜山区 ・貸し店舗の設置／空き店舗対策／起業者への助成 瀬棚区 ・整理して明るいイメージに／行政と連携し出店体制の確立（起業家支援）／長期的なビジョン必要／信金跡地利用／空き店舗が大変に目立つ／町を美化し印象に残る町づくりが必要／開業する上での支援策を講ずる／新しい産業を創出し雇用の場の確保 ●営林署跡地の活用 北檜山区 ・連携をとりながら最善の方法を ●民間活力の活用 北檜山区 ・PFI等で民間と共同で事業を／民間と協力した公共事業（アパート経営等）／公共事業へのプロポーザルの導入 ●公共工事の確保 瀬棚区 ・土木建築の仕事がない／北檜山区に解体工事が集中 ●鉱山の再開 大成区 ・住友鉱山が昭和35年ころにかけて調査した結果、20年後に本格的に鉱山再開を約束したが、実現していない																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								

■せたな町総合計画策定に係る検討個表

【産業経済専門部会】〈商工観光分科会〉

部門別項目【観光・特産品】

住民意見	現状と課題等（施策シート）	将来展望（取り組むべき事業等）				
【課題】 ●観光振興 北檜山区 ・新しい観光ルートを作る／総合的なビジョン（農業との連携）／グリーンツーリズム／団体客の受入態勢（宿泊、体験）／イベントの活用／地域と協力した体験観光／広域的な観光振興／自然休養村をきれいに整備し、観光に力を入れた方がよい／ターゲット客層を考えて／道の駅や物産館を隣接設置して特産品を販売。その周辺に公園や温泉施設を作り立ち寄る町に（ふれあいプラザ横、警察署裏、役場裏等の土地）／狩場山の真駒内ルートの山開きの復活／アユ等が釣れるきれいな川に／自然が豊かで住みやすく、安全な町。大きな予算をかけず観光客の増加や地場産業の育成を 大成区 ・道路沿いにオープンテラス／団体客の受入施設整備／地元の味PR（家庭料理）／地形や産業を活かした観光事業の推進／観光開発に力を入れ魅力ある町づくりを／キャンプ場で水の販売 瀬棚区 ・観光投資／立象山の活用／喫茶店／地元の食材を食べる場所 ●海を生かした観光づくり 北檜山区 ・釣り客を対象とした観光／洋上風車の有効活用／瀬棚から大成までの海岸線に定期船運行／海は観光客を呼べる。海産物が豊富な浜作りを 大成区 ・遊覧船／海岸の活用（自由にとらせる） 瀬棚区 ・海を活用した体験型観光／地引網・漁業体験（漁業と商業の連携）／フェリーの通年運航 ●新しい観光産業おこし 瀬棚区 ・食を中心とした町づくり／水仙の規模拡大 ●楽しい町 大成区 ・娯楽施設がまったくない	1 観光資源・施設<産業振興課> ①特色ある豊富な自然観光資源の有効活用 【奇岩】・三本杉岩・窓岩・獅子岩・親子熊岩・夫婦岩・タヌキ岩・マンモス岩 【山】・狩場山 【河川】・後志利別川 【滝】・横滝・藻岩の滝・熊尻り溪谷 【花】・水仙・あじさい ②観光施設の有効活用 【海水浴場】・三本杉海水浴場・平浜海水浴場・ふとろ海水浴場 【キャンプ場】・せたな青少年旅行村・貝取潤野営場・真駒内ダム公園 【レジャー施設】・B&G 海洋センター艇庫・北檜山グリーンパーク パークゴルフ場 【温泉】・やすらぎ館・大成国民温泉保養センター・湯とぴあ臼別 ・温泉ホテルきたひやま・町民いこいの家・ねとい温泉 【歴史】・瀬棚郷土館・アレウト号海難慰霊碑・大成郷土館・円空木彫像保管施設 【花見】・あじさい広場・玉川公園 【その他】・立象山展望台・洋上風車・茂津多岬灯台・狩場茂津多道立自然公園 ・荻野吟子公園・フェリーターミナル・太田神社・浮島公園・晩翠の森 ・真駒内さけ観察広場 【未実施】・温泉足湯整備事業 ・観光ルート整備事業（看板整備） ・青少年旅行村整備事業（オートキャンプ場等整備） ③ホテル・民宿などの宿泊施設 【ホテル】・温泉ホテルきたひやま・あわび山荘 【民宿】・瀬棚区9軒 ・大成区3軒 ・北檜山区2軒 【旅館】・瀬棚区1軒 ・大成区2軒 ・北檜山区5軒 ※「温泉ホテルきたひやま」「あわび山荘」は、日帰り入浴客及び宿泊客が減少し売上額が落ち込んでいる。 ※民宿・旅館は合併及び公共事業縮小の影響で官公庁及び業者の利用が激減 ④道の駅 【大成区】・てっくいランド大成 ※現在は、観光協会へ施設清掃・管理を委託し、観光案内、特産品の展示のみの実施で販売はしていないため、今後更なる有効活用について検討が必要（販売をする場合、現状の施設ではスペース的に狭いため、施設改修が必要） ④観光トイレ 【瀬棚区】・漁火公園・新港・三本杉・白岩・美谷・藻岩・須築②・教育の森② 【大成区】・貝取潤・太田 【北檜山区】・冷水川ラブリバー ※老朽化により対策が必要（三本杉は水洗化が急務） ※維持管理業務体制の検討 2 観光振興<産業振興課> ①観光客の受入れ体制の強化 ・滞在型の観光客誘致はもちろん、通過型の観光客の誘致も必要である。 ・豊富な食材が活かされていない状況である。 ・奥尻～瀬棚間フェリー利用者が減少（奥尻観光の衰退） ・知床、旭川人気による道南観光への影響 ・釣り客の受入れ対策（ごみ問題含め） ②観光PRの強化 ・地下鉄中吊ポスターなどによる札幌圏への誘致活動が効果的である ・インパクトのある観光PRで知名度向上を図る	1 観光資源・施設 ●観光資源の有効活用 ・観光資源の環境整備 ・町の花「水仙」の普及と規模拡大 ●観光施設の有効活用 ・施設の老朽化による修理及び改修 ・温泉足湯整備事業（新規） ・観光ルート整備事業（看板整備）（新規） ・青少年旅行村整備事業（新規） （オートキャンプ場等整備） ・同一施設の統合など既存観光施設の見直し検討（新規） ●宿泊施設の利用増進 ・観光客受入れ強化による宿泊施設の利用増進 ・滞在型観光の推進 ●道の駅の管理運営 ・維持管理業務 ・施設改修と有効活用（特産品販売等の検討）（新規） ●観光トイレの管理運営 ・老朽化による修理及び改修（水洗化含む） ・維持管理業務 2 観光振興 ●観光客受入体制の強化 ・各産業との連携強化 ・体験型メニューの創設（新規） ・地元の産品を活かした「食」のまちづくり事業 ・修学旅行などツアー客受入の推進と体制強化 ・釣り客のごみ持ち帰り対策事業 ●観光PRの推進 ・観光ポスター作成、掲出（地下鉄中吊、JRバス）	新規	継続	前期	後期
			○ ○	○ ○		
			○ ○ ○	○		
			○			
				○ ○	○ ○	
			○	○ ○	○	
				○ ○	○ ○	
				○	○	
			○	○ ○ ○	○ ○ ○	
				○	○	

■せたな町総合計画策定に係る検討個表

【産業経済専門部会】〈商工観光分科会〉

部門別項目【観光・特産品】つづき

住 民 意 見	現状と課題等（施策シート）	将来展望（取り組むべき事業等）
●観光協会の実情 大成区 ・いつまでも役場の事務委託を続けるのはいかがか／観光協会は商工会と一緒に実情／合併に向け職員配置など整理必要／民間の利益団体として発展すべき ●イベント 北檜山区 ・各区のイベントの手伝いを期に交流を（少し時間かけて）／北檜山区のイベント多い。統一して大きなイベントを／各区イベントに職員派遣、シャトルバス運行／補助金削減で開催でなくなったイベントも 大成区 ・冬の観光イベント開催／イベント交流／3区合同イベントを開催し通過型から滞在型の観光により町の活性化と収入増を（観光名所ツアー、祭典の太鼓合戦のPRなど） 瀬棚区 ・急がず時間をかけて交流／交通手段がなく他区のイベントが見られない／冬のイベント ●特産品開発と販路拡大 北檜山区 ・農産物に付加価値付けPR／営林署跡地に特産館建設／農産物・海産物セットのネット販売／安全安心な商品開発／道の駅の有効活用／日持ちするお土産（洋菓子系）がない。洋菓子系が欲しい／有名な腕のあるパティシエを呼ぶ／若いパティシエを育てる 大成区 ・道の駅の有効活用（アンテナショップ）／ワカメ焼酎の改良復活／幅広い情報発信 ●特色ある特産品の開発・販売 北檜山区 ・瀬棚区の町の宣伝を見習い、特色等を上手にPR／北檜山区のゆり根、ジャガイモ、ヤーコン、椎茸等の宣伝／特産物や加工品など、お土産として喜んでもらえるものを 瀬棚区 ・もっと住民が安く買えるような販売方法を／空き施設を利用し野菜市や魚市などを販売する朝市を作っては	・町ホームページの内容充実による幅広い情報提供で観光客誘致を目指す ※誘致するだけでも受入体制が整わないとマイナスイメージとなる。 ③冬季観光の取り組み ・温泉を含め幅広いメニューの創設を検討（食を含めた） 3 観光団体の育成<産業振興課> ①観光協会の育成・支援（H19.4.1合併） ・観光協会事務局は各商工会事務所に設置されているが将来独立を目指す。 【継続中】・観光協会補助金 4 イベント<産業振興課> ①各イベントの推進 ・3区連携（合同）イベント開催について検討が必要 【北檜山区】・玉川公園水仙まつり 【瀬棚区】・せたな漁火まつり 【大成区】・がっぱり海の幸フェスタ in わっためがして大成 【継続中】・水仙まつり開催事業補助金 ・せたな漁火まつり開催事業補助金 ・わっためがして大成開催事業補助金 ②冬のイベントの検討 【北檜山区】・雪合戦（昭和新山国際雪合戦渡島檜山予選会） ③イベントでの交通対策 ・高齢者などが気軽にイベントに参加できるよう足の確保が必要 ・イベント開催の際にシャトルバス運行などで交通手段を充実し集客及び飲酒運転対策を図る。 5 特産品開発<産業振興課> ①基幹産業との連携 ・豊富な農水産物が製品や料理（メニュー）に活かされていない ②消費者のニーズの把握・調査 ・消費者のニーズが製品や料理（メニュー）に活かされていない ・単発での製品開発が多く発展性がない ③開発者の育成 ・産業担い手対策と連携した取り組みが必要 6 販売及び販路拡大<産業振興課> ①商品のPR活動による販路拡大 ・町のどこでどんな物を売っているか分かりづらい ・町外のイベントやアンテナショップ、展示場などでの積極的なPRが必要 ・ふるさと会などへの積極的なPRも必要 【継続中】・リンケージアップフェスティバル（札幌市）参加事業 ②地元消費に向けての取り組み ・農水産物などが豊富なのに地元で買えるところが少ない（価格も高い） ・夕市のような定期的な販売会も必要	・町ホームページの内容整備充実 ・町の観光イメージ、コンセプトの作成（新規） ○ ●冬季観光の推進 ・温泉と料理を活かした観光客誘致 ○ 3 観光団体の育成 ●観光協会の育成・支援 ・観光協会運営に対する補助事業 ・観光協会の独立支援 ○ ○ 4 イベント ●各イベントの推進 ・「水仙まつり」開催に対する補助事業 ・「せたな漁火まつり」開催に対する補助事業 ・「わっためがして大成」開催に対する補助事業 ・3区連携（合同）のイベント開催（新規） ○ ●冬のイベントの検討 ・冬季の観光客誘致に向けたイベント開催（新規） ○ ●イベント開催時の交通対策 ・イベント時のシャトルバス運行（町民交流）（新規） ○ 5 特産品開発 ●基幹産業との連携 ・地元の産品を活かした商品開発 ○ ○ ●消費者ニーズの把握・調査 ・消費者の動向を見据えた商品開発 ○ ○ ・単発ではなくストーリー性のある商品開発 ○ ○ ●開発者の育成 ・産業担い手対策と連動した開発者の育成 ○ ○ 6 販売及び販路拡大 ●商品のPR活動による販路拡大 ○ ・特産品MAPの作成（新規） ○ ○ ・リンケージアップフェスティバルへの参加 ○ ○ ・関係機関への積極的な情報提供 ●地元消費に向けての取り組み ・地元業者と連携した地場産品の提供体制の整備 ○ ○ ・定期的な販売会の開催（夕市やふれあい市場などとの連携） ○ ○

部門別項目【自然保護】

住民意見	現状と課題等（施策シート）	将来展望（取り組むべき事業等）				
	●自然保護<産業振興課> ・当町は、狩場山系や海岸線を中心に優れた自然環境に恵まれている。 ・水源養成など生態系の保全が必要。 ・自然に親しみ自然と共生するまちづくり。 ※狩場茂津多道立自然公園 ※檜山道立自然公園	●豊かな自然を守り育てるため、自然にふれあいながら自然保護の大切さを理解し、環境保全活動を継続的に推進する ・自然環境の保護と育成 ・自然にふれあい親しむ環境づくり ・自然環境教育の推進	新規	継続	前期	後期
				○ ○ ○	○ ○ ○	

■せたな町総合計画策定に係る検討個表 <行財政まちづくり分科会>

部門別項目【行政】

住民意見	現状と課題等（施策シート）	将来展望（取り組むべき事業等）				
課題】 ●役場の体制と意識改革 北檜山区 ・職員は他の区を知らない／各区職員の交流と融和／町民要望の早期実現を／地域行事に協力する体制づくり／職員削減／人件費削減／職員が親切になれば町民も協力する／議論の場が必要／ないお金（予算）をどう合理的に使うかを考えるのが行政の仕事／通訳を雇う必要があるのか。経費削減に努めて／職員の共働きをやめ新しい職員を入れることによって、町が活気づく／民間の発想を取り入れ、せたなの営業マンになって／住んでいる人間を心の底から大事に思い、愛することから始まる／財政に合った要員、給与とし、町民サービスの充実を 大成区 ・地区担当職員制度は大変よい／国、道としっかり交渉できる力、町民のために案をしない行政／憲法、教育基本法を実践する町／住民の意向が全く反映されていない／少ない予算で最大の効果を／ソフト面の充実を／合併して職員が少なくなり、さびしい／身の丈に合った町づくりの徹底（事業や人員の整理） 瀬棚区 ・職員のボランティア意識／各区職員の交流／行政と住民の対話が大切／職員の大規模な異動／職員、町議が多すぎる／区長廃止／早急に職員の給料格差を是正し、能力のあるもの、やる気のあるものに仕事を与えていくようにすれば、活気のある町に育っていく／役場の窓口も分散させるべき（産業振興課、保健福祉課、教育委員会等は支所に配置）／小さな行政、すっきりした行政 ●職員の資質向上とリーダーシップ 北檜山区 ・相互の友情関係の構築／指導者は、心を引き締め自主独立の路線を／愛情ある政治を／人間性豊かな町職員／職員に明るさがない。明るく挨拶して／保守的な町を打破するには、役場の強力なリーダーシップを／足の引っ張り合い多い／公務員の意識改革。リーダーの不足。総合的な角度からの話し合い／職員の活動（取り組み）に期待／職員は町民の代表。住みよい町になるかを考えて／役場と町民の間に壁を作らない／町民のために働いているという意識を強く持ち、町民を引っ張って／町民が喜んで参加する町に／職員が基本を示し、町民全体で考えていくことが大事／職員が働くと、町民も働く／職員は地域のものを利用すべし／民を導く強いリーダーシップを 大成区 ・各種委員、行政担当者、町議の積極的な活動、住民とのふれあいを望む／町長、町議、職員は現状を踏まえ、危機感を持って仕事に励んで／行政のプロとして意見を出し合い、町づくりを／担当者や従業員の対応（接客、接遇）の悪さが気になる／役場の窓口に行くと、一斉に視線を向けられる。職員から声をかけるよう直して 瀬棚区 ・行政や議員は、町民の声を聞き何を望んでいるか理解して／各部署、各担当の活動は評価するが、上の方々の働きが見えない／大世帯になればなるほど、公僕としての資質向上に努めて／採用はしっかり試験を行い、この町を支えられる人材を選んで／役場職員はもっと外に出て町民と交流を／行政の積極的な指導が必要	1 行政組織・事務改善<総務課・政策調整課> （現状） ①旧町の組織を基本に事務処理の単位を課・係間で段階的に定め、それぞれの所掌事務を明確に規定 （課題） ①適性かつ効率的な組織機構の整備 ②官・民の役割分担 ・官主導から民主導へという流れ ③事務事業の効率化に向けた見直し ※行政改革大綱（H17～H21）に基づき、行政改革に取り組んでいる。 2 職員の資質の向上<総務課> （現状） ①研修機会の奨励啓発 ②北海道との人事交流の推進 ③政策法務に精通した職員の育成 （課題） ①新町における「人材育成基本方針」「研修に関する基本方針」の策定（平成１９年度策定予定） ②地方分権や広域行政の推進に伴う人材育成 ・職員の意識改革・政策形成能力や政策法務能力の向上が求められる	1 行政組織・事務改善 ●自立した自治体経営の確立に向け、特色ある行政運営と行政サービスの向上のため、行政組織・機構、事務事業の効率化に向けた見直しなど行政改革を計画的に推進する ・住民サービスの充実が図れる組織・機構の再編整備と適正な職員配置 ・類似・共通する分野の一元化、事務分掌の効率化 ・官・民の役割分担の判断と見直し ・計画的な行政改革の推進 2 職員の資質の向上 ●地方分権時代に対応した職員の資質の向上に向けた各種研修への参加や人事交流のほか、町民とともにまちづくりを進める意識の徹底と体制づくりに努める ・各種研修等の積極的参加の奨励 ・北海道との人事交流の推進 ・人材育成と意識改革の徹底	新規	継続	前期	後期

■せたな町総合計画策定に係る検討個表 〈行財政まちづくり分科会〉

部門別項目【行政】つづき

住民意見		現状と課題等（施策シート）		将来展望（取り組むべき事業等）					
●行政サービスの向上 北檜山区 ・総合受付が２階にあるのは異常。玄関近くに移して／高齢化が進む１０年後、２０年後を考えると、町民にやさしい行政サービスが必要 大成区 ・住民の意見を聞くことが必要／行政が何を行っているか、町民にわかりやすく文章等で周知して ●庁舎の喫煙 大成区 ・今でも自由にタバコを吸える環境で、とても気分が悪い。入りたくないと思う。									
		(H19.4.1より庁舎内分煙実施済)							

■せたな町総合計画策定に係る検討個表 <行財政まちづくり分科会>

部門別項目【財政】

住民意見	現状と課題等（施策シート）	将来展望（取り組むべき事業等）
【課題】 ●財政の健全化 北檜山区 ・今は無理せず耐える時期／将来に望みをかけ辛抱／住民サービス低下が心配／町民が理解していない／職員・町民が財政難を意識して／財政難は、「やってもらって当たり前」という考えを見直すよい機会／町民全体で我慢して、早く財政を立て直して／財政破綻を避けるため努力を／財政非常事態宣言を確実に実行／財政難に脅えず、勇気ある決断、実行を（具体案） ・助成金全面廃止／事業の精査・優先順位（必要・不必要）／知恵とオリジナリティを発揮／町税を上げても、町の借金をゼロに／町税を上げない／財源確保が必要／瀬棚高校を廃止し北高に統合／回覧板等は人数を把握し、適切な枚数で／ダム公園は使用料を徴収／継続事業の中止など歳出削減が急務／人権擁護委員、民生委員等は各１名ずつ配置で十分／職員が庁舎の清掃を行うなど目に見える経費節減策を／全町民にサービスダウンに耐えてもらう／職員や町議の報酬を下げて 大成区 ・非常事態宣言に町民はどう協力したらいいのか止／非常事態宣言に大変心配／各区で補助金が異なる／無駄遣い／財政健全化に努力を（具体案） ／各種団体補助金の見直し／各区の補助金を公開／財源の確保／支所の効率化／借入の見直し／事業の抑制／各種施設（温泉公社、風力発電等）の売却および廃／既得権を排除する気概を示して／事業の精査・優先順位（必要・不必要）／発想の転換 瀬棚区 ・町負担のある国の事業も最初からあきらめている／非常事態宣言に町民はどう協力したらいいのか／何かにつけお金がないで終わる／我慢すべきは我慢もする／行政一丸となって新町再建に努力を（具体案） ・町が率先して節約を／事務、事業の見直しはもちろん、理事者、議員、職員の給与等の歳出削減から着手／身の丈にあった住民の福利対策を／現在のサービス全てが必要か。有料にするなど全体的見直しを／財源確保のため、高レベル放射性廃棄物の最終処分施設の設置可能性調査への応募（原子力発電環境整備機構）／実情を見ながら補助を／経費削減（車両削減、人件費、職員）／町税等未収金の回収／土地等の適正な料金徴収を ●財政情報の共有 北檜山区 ・非常事態宣言を出すほど財政が逼迫しているのか、わかりやすく町民に説明を／合併前に言われていたことと反している／情報公開をもっとして／実質公債比率が悪い方から４番目だが実際はどうなのか／合併後の財政シミュレーションでは、平成１８～２６年までは黒字で経過しており、黒字続きの収支予想になっているのだが 瀬棚区 ・町財政の収支を町民に正しく知らせること／何もしていないのに、財政非常事態宣言とは何のこと	１ 財政運営<財政課> ①国の三位一体改革に伴う地方交付税の大幅な削減等による財源不足 ②起債発行事業を見直し、公債費の抑制に努める ③行政コストの削減、歳出経費全般についての節減 ④健全な財政基盤を確立するための中長期的な取り組み ⑤財政健全化計画、財政再生計画の策定（再生法制関連） ⑥町税、各種使用料、学校給食費等の滞納対策 ※国の動き ・「経済財政運営と構造改革に関する基本方針 2006（骨太の方針 2006）」（社会保障費や公務員の人件費などを削減することで国と地方の歳出を今後 5 年間で 11 兆 4000 億円から 14 兆 3000 億円削減することなどが柱となっている） ・人口と面積を基本として算定する「新型交付税」が平成 19 年度導入される（総務省） ・地方公共団体の再生法制について（総務省） ○健全化判断比率の公表等……毎年度、次の健全化判断比率を監査委員の審査に付した上で公表しなければならない。 ①実質赤字比率 ②連結実質赤字比率（全会計の実質赤字等の標準財政規模に対する比率） ③実質公債費比率 ④将来負担比率（公営企業、出資法人等を含めた普通会計の実質的負債の標準財政規模に対する比率） 健全化判断比率が早期健全化基準以上または財政再生基準以上の場合は、財政健全化計画または財政再生計画を定めなければならない。 ２ 歳出削減<財政課> ①行政コストの削減、歳出経費全般についての節減 ②補助金等の見直し ③他会計繰出金の抑制 ④事務事業の見直し	●厳しい財政状況の中、健全な財政基盤の確立のため、自主財源の確保と行政コストの削減や起債発行の抑制、事務事業の見直し等に努める ・起債発行を抑え公債費を抑制 ・事務事業の一層の見直し ・町税、各種使用料、学校給食費等の滞納分の法的手段も視野に入れた収納対策 ２ 歳出削減 ・行政経費の節減 ・補助金等の大幅な整理合理化 ・他会計繰出金の抑制 ・事務事業の一層の見直し ・費用対効果を重視した予算執行

■せたな町総合計画策定に係る検討個表
 <行財政まちづくり分科会>

部門別項目【広域行政】

住民意見	現状と課題等（施策シート）	将来展望（取り組むべき事業等）				
【課題】 大成区 ・八雲町との連携を強く（バス運行など）	1 一部事務組合<町民児童課> ・北部桧山衛生センター組合 ①現状 北部桧山衛生センター組合で、し尿収集及び処理、ごみ収集及び処理の事務事業を今金町と共同処理している。 ②課題 廃棄物の処理に係る構成町の財政負担は大きく、合理的な設備投資や処理経費の軽減を図りながら、どう施設を維持するかが課題である。 ③問題 構成町の下水道化により年々し尿の収集量が減少するため、処理経費の軽減を図るため将来は公共下水道との共同処理を検討する必要がある。 ※国の動き M I C S 事業の推進 2 広域市町村圏等<政策調整課・総務課> ・檜山広域行政組合（消防と広域事業） ・近隣町との連携強化	1 一部事務組合 北部桧山衛生センター組合 ・効果的なし尿、ごみ収集処理と施設整備 ・し尿のM I C S 処理 ・ごみ焼却の広域化 ・ごみの3 R 推進(継続) 2 広域市町村圏等 ・檜山広域行政組合（消防と広域事業） ・近隣町との連携強化	新規	継続	前期	後期
		○ ○ ○	○	○		
			○	○		
			○	○		

■せたな町総合計画策定に係る検討個表 <行財政まちづくり分科会>

部門別項目【広報広聴・情報公開】

住民意見	現状と課題等（施策シート）	将来展望（取り組むべき事業等）				
【課題】 ●広報 北檜山区 ・広報での行政用語などわかりやすい表現で／町の動向を広く周知／「お誕生おめでとう」コーナーは、両親の名前を記載して／住民活動を多く掲載／ふるさと通信員制度を／余白が多い 瀬棚区 ・広報は希望者のみに配布し主要な場所に配置	1 広報誌・ホームページ<政策調整課> ①町広報誌の充実 ②ホームページの充実 ※広報誌ホームページ編集委員会を毎月開催 ※有料広告を実施（H18. 8月から） ※町勢要覧作成済 H18年度	1 広報誌・ホームページ ・町広報誌の内容充実 ・有料広告の推進(広報誌、ホームページ) ・ホームページの内容充実（随時更新）	新規	継続	前期	後期
●広聴 北檜山区 ・懇談会等に人が集まる工夫を／移動町長室を実施し住民の声を聞く 瀬棚区 ・地域住民の声に耳を傾け、住民とともに町づくりを進めて／住民の声がきちんと町長へ届く体制作りを／住民の意見を聞いて、安心して住める町に	2 広聴<政策調整課> ①地区懇談会の開催（特例区事業） ②地区担当職員制度の活用	2 広聴 ・地区懇談会の開催（特例区事業） ・地区担当職員制度の活用				
●情報公開 北檜山区 ・情報公開・提供／情報公開が大切／住民と行政が情報を共有し、お互いに理解を深め住民の力を積極的に取り込む施策が必要	3 情報公開<総務課> （現状） ①せたな町情報公開条例をH18年4月1日より施行 ②合併時より文書管理システムを運用 ※H18年度実績 ・実施機関 町長 請求件数6件（うち開示5件、不存在1件）	3 情報公開 ・情報公開制度の適正な運用 ・積極的な町政情報の提供 ・情報コーナー設置の検討(新規)	○			

■せたな町総合計画策定に係る検討個表 <行財政まちづくり分科会>

部門別項目【地域づくり】

住民意見	現状と課題等（施策シート）	将来展望（取り組むべき事業等）				
【課題】 ●地域の特色あるまちづくり 北檜山区 ・地域産業に根ざした町づくり／田舎を売り物にする発想で、無理のない町行政の推進を／地域性・必要性を十分検討し、町づくりに取り組んで 大成区 ・各区の個性を生かした町づくり／田舎らしい町づくり／昔風の港町づくり／磯遊びや森遊び、川遊びができる町づくり／都会の後追いの町づくりはいやだ 瀬棚区 ・各区の共通する特色生かした町づくり／北檜山区への集中は避ける／これまでの特色ある町づくりを新町に活かしてこそ、せたな町の未来がある／北檜山は行政関連が集中、瀬棚区は住居や福祉関連を集中させる／全町民の理解を得てそれぞれ特徴のある地区に発展させる／何が瀬棚区に必要な見直すことが大事 ●住民の意識改革 北檜山区 ・自分でできることは自分でする意識が必要／町民と役場職員が協力して意識改革を／常識による市民参加型の町づくりを／小さな子どもでも理解できる町／町づくり意識を高め、みんなが町のことを言うように／町主体ではなく住民が自発的に行動を起こすことが必要／町づくりは皆でやるもの。町民みんなが参加する意識の向上／親近感のない町になったような気がする。個人個人が町を思う町でありたい／各自が産業、地域づくりに努力する成熟した町に 大成区 ・大成区だけでなく他区のことも考えて／自分でできることは自分でする意識が必要／みんなでつくる町 瀬棚区 ・個人の意見、知恵を出し合い、議論し、最後は和 ●移住・定住対策 北檜山区 ・人口が増える町づくり（移住政策）／人口増→経済活性化／団塊世代の移住促進策（情報提供）／農業、漁業に力を入れ、町外からの移住者が来やすいような地域環境作りを進め人口増を／自然環境を利用し安心して住める町づくり。特に医療を充実させ移住者の誘致を／農漁商が安心できれば定住者が増加する／活力に満ちた産業の町づくりに力を入れ、若者が永住できる町に 瀬棚区 ・定住対策により産業の振興／持ち家建設助成制度（地元業者利用）／ふるさと会への情報提供 ●人材の育成 北檜山区 ・土地柄を生かした町づくりを発想できる志の高い人／将来の町のリーダーを育てる努力が必要／世代交代、青年リーダーの育成を／人間的に優れたリーダーを 瀬棚区 ・人づくりを優先／学校教育にかかわらず、大人も子どもも本当の幸福を追求する町づくり	1 地域づくり活動支援<政策調整課> ①本区出身者ふるさと会活動の育成支援、連携 （北檜山区）在札太檜会 （瀬棚区） サッポロ瀬棚三杉会、東京瀬棚会 （大成区） 札幌大成会、東京大成会 ②地域活性化活動の推進 ・YOSAKOI ソーラン活動支援 大成区「わっためがして大成」 瀬棚区「瀬棚気合一本」 ・地域の特色を生かしたまちづくり活動 ③地域スポーツ等交流事業の推進 ・合併後の町民の一体化 2 協働のまちづくり ・住民参加の機会づくり ・住民が参加しやすい体制づくり 3 定住促進<政策調整課> ①空き家情報等定住（移住）促進（HPの活用） ・北海道の事業である「北の大地への移住促進事業」と併せ各種情報提供 ・様々なニーズに対応した情報提供 ②出生祝い金 ・H19年度より一律30,000円支給	1 地域づくり活動支援 ・本区出身者ふるさと会活動の育成支援、連携 ・特色あるまちづくり活動の育成、支援 ・町民交流事業の推進 2 協働のまちづくり ●住民参加機会の拡大、住民が参加しやすい体制づくりなど、住民と行政による協働のまちづくりを推進する ・住民参加の仕組みづくり 3 定住促進 ●様々なニーズに対応した情報提供に心がけ、定住の促進を図る ・定住（移住）促進活動の推進（情報提供の強化） ・出生祝い金制度	新規	継続	前期	後期
				○ ○ ○	○ ○ ○	
				○	○	
				○ ○	○ ○	

■せたな町総合計画策定に係る検討個表 <行財政まちづくり分科会>

部門別項目【地域づくり】つづき

住民意見	現状と課題等（施策シート）	将来展望（取り組むべき事業等）																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
【課題】 ●ビジョンをもったまちづくり 北檜山区 ・どんな町づくりを目指しているのか見えない／町のことを十分知った上でビジョンを持って進めて／沢山ある素材をどう生かすか、知恵を絞り人脈を活用して／新町長は、夢に向かって計画性のある政策を／意識改革、知恵を出して町行政を。知識があっても知恵がない／町政の実態と方向を明確に／中心地ばかりではなく、例えば若松地区なども発展させたい／近代産業や大型店が必要／何でもかんでも経費削減は、後継者のやる気を損なう。やりがいのある振興策を／発想の転換と馴れ合いの打破／必要なことには大いに使い、町づくりにがんばって 瀬棚区 ・過疎化や高齢化の進行、産業振興の難しさなど、今後もアットホームな町であり続けてほしい／住民への負担を考え、生活弱者が住みよいと思える町づくりを／もっと町民が喜ぶ話が聞きたい／若者を呼び込める町、魅力ある町づくりを／無理のない、等身大の町づくりを／子どもが夢を持てる町、愛着を持てる町づくり／産業振興が重要。過度の補助削減で振興の妨げになっては町の発展もない ●安心して暮らせるまちづくり 北檜山区 ・安心して住みやすい、明るい町を目指して／町民が楽しく暮らせる町／財政非常事態で不安な感じだが、安定した町づくりを／一人一人が恵まれた自然を愛し、責任を持ち、力を合わせ、希望に満ちた文化の町に／人口減少、高齢化をしっかりと認識して／不公平のない、安心感のある町 大成区 ・老後を安心して生活できる町に／町民が安心して暮らせる町づくり／ねたまないこと／社会的マナーを一人一人が身につけ明るく仲良く暮らしたい／住みやすい、親切的な町づくりを心がけて 瀬棚区 ・老後の不安を少なく／独居老人が多くなり福祉、医療の問題が一番心配／農村部では交通手段も不安 ●活気のある町 北檜山区 ・農林水産業と地域の経済活性化に取り組んで／一次産業と建設産業を活性化させ過疎を食い止める／活気がない。プラス思考で何かを積極的に／子どもは地域の宝。沢山の子どもが住める町 大成区 ・若者が戻ってこられるような町づくり／３区が力を合わせて産業振興を／新しい産業ばかりでなく、今までの農業、漁業にも力を入れ住民に理解してもらう場を持つ／農業、漁業、産業の活性化があまり見られない。沢山の自然を利用し住みよい町に ●公共施設の有効活用 北檜山区 ・各区の施設を統合し経費節減／施設の有効活用／老朽化した施設の再点検と整備が必要 大成区 ・寿の家、生活館を民間（展示販売）にも利用させては 瀬棚区 ・ふれあいセンターの利用方法／既存施設などを大事に使用し、住民の自主意識を高める町づくりを																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						